

令和7年度 学力・体力向上プラン

学校名 中央区立阪本小学校

1 課題

【4月】令和6年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題 【10月】令和7年度学習力サポートテスト、体力テストの結果等によって明らかになった課題	
児童・生徒の学力の課題	
国語	【4月】 ・第4学年は、どの領域も正答率が目標値を上回っていた。しかし、「ローマ字」設問の正答率が60%と全国正答率の67%を下回っていた。 ・第5学年は、どの領域・内容も正答率が目標値を大きく上回っていた。ただし、漢字を書く設問の正答率が70%を下回っていた（69.1%）。 ・第6学年は、どの領域・内容も正答率が目標値を上回っていた。ただし、文章を書く問題の無解答が25%を超えている。一部の児童に対して、書くことへの抵抗感を減らす必要がある。 【10月】 ・第4学年は、校内平均正答率81.1%であり、目標値66.6%・区76.2%・全国66.8%に対して、大きく数値を上回っている。漢字の領域は、目標値65%に対して校内平均値61%と目標値を4%下回っていることから課題があるといえる。 ・第5学年は、どの領域も正答率が目標値及び全国平均を上回っている。しかし、「話の内容を聞き取る」や「説明文の内容を読み取る」については、区平均を5ポイント以上下回っている。 ・第6学年は、どの領域も正答率が目標値及び全国平均を上回っている。しかし、問題の内容別正答率でみると「文章を書く」は目標値と同値であり、区の平均正答率を8.9%下回っている。また、「敬語」に関しても正答率が目標値を8.1%下回っている。
算数・数学	【4月】 ・第4学年は、どの領域・内容も正答率が目標値・区平均正答率を上回っていた。しかし、「データの活用表～表とぼうグラフ～」の数量の読み取りに関する設問の正答率（73%）が目標値（75%）を、下回っていた。 ・第5学年は、どの領域・内容も正答率が目標値より大きく上回っていた。ただし「データの活用～折れ線グラフと表～」の正答率が70%未満（69.4%）だった。 ・第6学年は、どの領域・内容も正答率が目標値より上回っていた。ただし、「分数の計算」においては、正答率が74.1%であり、目標値70.0%との差が最も小さかったため、課題がある。 【10月】 ・第4学年は、校内平均正答率84.7%であり、目標値71.6%・区81%・全国72.4%に対して、大きく数値を上回っている。全領域で区平均値を上回ってはいるが、長さ・重さ・表と棒グラフの領域に課題があるといえる。 ・第5学年は、どの領域の正答率も目標値及び前項平均正答率を上回っている。しかし、「大きな数の表し方」や「割り算・計算のきまり」については区平均を3ポイント以上下回っている。 ・第6学年は、校内平均正答率82.7%であり、目標値62.3%・区72.4%・全国60.9%に対して、大きく上回っている。全領域で目標値を上回っているが、「割合」の領域に課題がある。

社 会	【４月】 ・第４学年はどの領域・内容も目標値を上回っていた。一方で、地図記号の暗記や資料の読み取り問題に課題がある。 ・第５学年は、どの領域・内容も目標値を概ね上回っていた。ただし「自然災害からくらしを守る活動」の水防倉庫の設置目的を問われた問のみ目標値を２７．９パーセント下回っていた。 ・第６学年は、どの領域・内容も目標値を上回っていた。ただし、「日本の工業生産」で全国平均並であり、課題がある。 【１０月】 ・第４学年は、校内平均正答率７９．５％であり、目標値６８．３％・区７５．７％・全国６９．１％に対して、大きく上回っている。しかし、工場の仕事の領域は、目標値７５％に対して校内平均値７３．２％と目標値を１．８％下回っている。 ・第５学年は、どの領域も目標値、区平均、全国平均ともに上回っている。学力定着のため、既習事項の復習は必要である。 ・第６学年は、校内平均正答率８４．５％に対して、目標値６７．５％・区７５．２％・全国６９．２％と大きく上回っている。全領域で目標値を上回っているが、「世界の中の国土」の領域には課題がある。
理 科	【４月】 ・第４学年はどの領域も目標値を上回っている。しかし、設問ごとにみると「植物の育ち方」（４５％）「電気の通り道」（４３％）「磁石の性質」（２６％）の正答率が低く、課題が見られる。 ・第５学年は、どの領域・内容も正答率が目標値を大きく上回っていた。 ・第６年生は、ほとんどの領域・内容の正答率が目標値を上回っていたが、「顕微鏡の使い方」は、正答率が４６．３％であり、大きな課題がある。 【１０月】 ・第４学年は、校内平均正答率６１．９％に対して、目標値５９．８％・区６２．１％・全国５６．７％と目標値及び全国平均は上回っているが、区の平均よりは下回っている。特に、身近な自然・植物・昆虫の育ち方・電気の通り道に課題があるといえる。 ・第５学年は、教科の正答率としては目標値と区平均ともに上回っているが、「植物の成長」「天気の様子と気温」「月と星」「ものの温まり方」については、目標値、全国平均ともに１０％ほど下回っている。 ・第６学年は、どの領域も正答率が目標値及び全国平均を上回っている。しかし、問題の内容別正答率で見ると「魚のたんじょう」は目標値を１．７％、区の平均正答率を２％下回っているため、課題がある。また、「人のたんじょう」に関しても正答率が目標値を３．８％、区の平均正答率を６．３％下回っている。
英 語	【４月】 ・多くの領域・内容の正答率が目標値を上回っていたが、「アルファベットの書き方」の正答率は７２．８％、「英作文」の正答率は６６．７％と全国平均を下回っており、大きな課題がある。 【１０月】 ・どの領域も正答率が目標値及び全国平均を上回っている。しかし、問題の内容別正答率をみると、「単語や表現の意味理解」は５．９％、「アルファベットの読み」は２．５％、区の平均正答率を下回っている。このことから、「聞くこと」に課題があるといえる。

体力向上	【４月】 ・令和６年度「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」の結果では長座体前屈は半分の学年で、握力の一部の学年で全国平均を下回っている。 ・第４、５、６学年のシャトルラン測定を合同でやったことにより、中位層の記録を大きく伸ばすことができた。しかし、下位層の記録を伸ばしていく必要がある。 【１０月】 ・全国体力調査の結果より、第４学年は、男子・女子ともに握力及び長座体前屈に課題があることが分かった。 ・全国体力調査の結果より、第５学年は、男子は握力及び５０ｍ走、女子は握力及び長座体前屈、５０ｍ走に課題があることが分かった。 ・全国体力調査の結果より、第６学年は、男子女子ともに握力及び上体起こし、ボール投げに課題があることが分かった。
------	--

２ 年度末までの目標及び指標、具体的な取組

	年度末までの目標及び指標	具体的な取組
国 語	【４月】 ・立場や状況に応じた適切な言葉や言い方で、伝えたいことを伝えたり、聞きたいことをインタビューしたりすることができる。 ・漢字の確実な定着を行う。第４，５，６学年の学習力サポートテストで全国平均を上回る。さらに、次年度も上回ることができるように指導する。 【１０月】 ・第４学年は、漢字の領域は、目標値６５％に対して校内平均値６１％と目標値を４％下回っていることから目標値を達成できるようにする。 ・第５学年は、「文章を書く」ことの無回答率を１０％未満にするとともに、叙述をもとに段落の関係を捉えられるようにする。 ・第６学年は、「文章を書く」ことの無回答率を１０％未満（現在２３．１％）にするとともに、敬語に関する理解を深められるようにする。	【４月】 ・新しい言葉や漢字の学習では、ただ覚えるのではなく、意味を自分で調べてから練習し、使い方についても繰り返し書いて覚えるようにする。 【１０月】 ・第４学年は、漢字の学習に課題があることから、普段の学習や宿題でも重点的に漢字の学習を取り入れ、繰り返し指導を行っていく。 ・第５学年は、普段から書く習慣を増やしていくとともに、読み物教材にて叙述をもとにしながら文章の構造の学習をしていく。 ・第６学年は、書くことの習慣を付けるために、定期的に、はがき新聞を活用する。
算数・数学	【４月】 ・複数の方法で答えを導き、図や式を用いて説明できるようにする。 ・算数用語の定期的な振り返りを行い、定着させる。 ・第４，５，６学年の学習力サポートテストの全ての単元で全国平均を上回る。 【１０月】 ・第４学年は、全領域で目標値を上回っている	【４月】 ・低学年のうちから定規を使った直線の引き方、長さの測り方が身に付くよう、ノートの手書き方や工作などで意識して指導を行う。 【１０月】 ・第４学年は、「かけ算」や「長

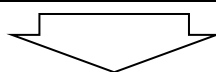
	が、長さ・重さ・表と棒グラフの領域に課題があることから、当該領域を重点的に指導し、定着させる。 ・第5学年は、基本的な計算問題の正答率を80%以上にする。 ・第6学年は、全領域で目標値を上回っているが、「割合」の領域に課題があることから正答率を80%以上にする。	さ・重さ」及び、「表と棒グラフ」に課題があることから、「かけ算九九」の見直しや各単位についての習熟を深めさせるとともに、「表やグラフ」の読み取りについても繰り返し練習問題等に取り組ませていく。 ・第5学年は、普段の授業の中で計算の仕方の復習などを取り入れていく。 ・第6学年は、「割合」に課題があることから、数直線を活用して課題解決に取り組むことの習慣を付けさせる。
社 会	【4月】 ・調べたり、学んだりした内容を自分の身の回りの生活と結び付けて考えることができるようにする。 ・第4，5，6学年の学習力サポートテストの全ての単元で全国平均を上回る。 【10月】 ・第4学年は、第4学年は、工場の仕事の領域が、目標値75%に対して校内平均値73.2%と目標値を1.8%下回っていることから、75%以上、達成できるようにする。 ・第5学年は、年表や複数の資料の読み取りについての正答率を60%以上にする。 ・第6学年は、全領域で値を上回っているが、「世界の中の国土」の領域に課題があることから正答率を80%以上にする。	【4月】 ・インターネットで調べるだけでなく、実際に自分の目で見て調べ、図書資料等をもとに考え発見し、課題解決するような学習を多く取り入れる。 【10月】 ・第4学年は、「工場の仕事」に課題があることから、地域の産業の様子を、人々の生活との関連を踏まえて理解させるとともに、調査活動、地図帳などの資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けられるようにする。 ・第5学年は、普段の授業において資料の読み取りに重点を置き、ペアやグループでの確認を入れながら取り組む。 ・第6学年は、世界の海や国の位置を確認するとともに、日本の国土についても理解を深めることができるよう歴史と絡めて振り返りを行う。
理 科	【4月】 ・身の回りの自然や現象に触れ体験する活動に積極的に取り組めるようにする。 ・第4，5，6学年の学習力サポートテストの全ての単元で全国平均を上回る。 【10月】 ・第4学年は、目標値及び全国は上回っている	【4月】 ・坂本町公園での植物や生き物の観察は、自分の木や場所を決めて定点観察するなどの機会を増やし、方法も工夫して行っていく。 【10月】 ・第4学年は、身近な自然や植

	が、区の平均は下回っている。特に、身近な自然・植物・昆虫の育ち方・電気の通り道に課題があることから、正答率を区の平均以上にする。 ・第5学年は、基礎的な知識の習得問題の正答率を70%以上にする。 ・第6学年は、「魚のたんじょう」「人のたんじょう」どちらも目標値を下回っている。そのため、どちらの内容も正答率を80%以上にする。	物・昆虫の育ち方及び電気の通り道に課題があることから、実験・観察を通して、回路の仕組みなどについても十分な習熟の時間を設けていく。 ・第5学年は、基礎的な知識や技能について授業内で繰り返し触れたり、確認したりするようにする。 ・第6学年は、生物の成り立ちに課題があるといえる。そのため、関わりのある単元を学習する際に振り返りを行う。
英 語	【4月】 ・様々な活動を通して英語のアルファベットや単語を、体験的に学んでいけるようにする。 ・第4，5，6学年の学習力サポートテストの全ての単元で全国平均を上回る。 【10月】 ・毎時間、英語の歌やチャンツを取り入れ、全ての児童が暗唱でき、80%以上の児童がフォニックス通りの発音ができるようにする。	【4月】 ・フォニックスを用い、発音の規則や語順等を体験的に学び、単語の語彙を豊かにする。 【10月】 ・授業のはじめに英語の歌を聞いたり歌ったりする活動を取り入れる。
体力向上	【4月】 ・令和7年度「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」では、長座体前屈の記録を全国平均まで押し上げる。 ・シャトルラン測定で下位層の記録を引き上げる。 【10月】 ・第4学年は、基礎的な体力及び柔軟性の向上を図る。 ・第5学年は、基礎的な体力及び走力の向上を図る。 ・第6学年は、基礎的な体力の向上を図る。	【4月】 ・柔軟体操などを継続的に行う。 ・一定の負荷の中で運動を継続する経験が不十分であるため、体育の授業等で、ストレッチや短縄など体力高める運動を準備体操の中に取り入れる。 【10月】 ・第4学年は、体育の時間にて子どもたちの運動量を確保するために、鬼ごっこやかけっこなど体力を高める運動を取り入れ、休み時間に体育館や校庭で遊ぶように促す。 ・第5学年は、体育の時間にて活動内容や場の設定を工夫して、子どもたち一人一人の運動量を確保していくようにする。休み時間に体育館や校庭で遊ぶように促す。 ・第6学年は、休み時間に全員で遊ぶ機会を計画的に設定する。また、体育の時間の最初に5分間走を取り入れる。

個別最適な学びと協働的な学びの充実	
取組	・区学習力サポートテスト等の結果を踏まえ、児童の実態を全教職員で把握する。学力向上プランのPDCAサイクルを実施し、低学年から指導の工夫・改善を図る。 ・小学校授業スタンダードを活用した指導力の向上を図り、区費講師等の活用による算数習熟度別指導や少人数指導、個別指導・自主学习支援テキスト、東京ベーシック・ドリル等の活用を通して個に応じた指導の工夫を図る。 ・特別支援教育の趣旨を踏まえて一人一人の学習状況に応じた指導を行うために、協力的な指導、教材の開発、評価の改善、学習環境の充実を図る。 ・家庭学習キャンペーン（年3回）の実施を通して、家庭と連携した学習習慣の定着を図る。

探究的な学びの充実	
取組	・「国際理解教育（邦楽、オリンピック・パラリンピック教育等）」「キャリア教育（金融教育・法教育）」「環境教育」を中心として、問題解決的な学習を通して、探求力の育成を図る。さらに、人やものとの関わりを重視し、自己決定力を育てる。 ・学年の発達段階に応じて培う力を明確にし、他者と協働して問題を解決する学習を展開する。また、言語により分析し、まとめたり表現したりする横断的・探究的な学習を展開して生きる力の育成を図る。 ・外部講師、外部機関との連携を深め、地域の素材や学習環境を積極的に取り入れる。 ・校内研究のテーマであるデジタルシチズンシップ教育を通して情報モラルの理解を深めるとともに、情報活用能力やリテラシー、プログラミング的思考力を高め、情報社会に対応する教育活動を行う。 ・身に付けた情報モラル、プログラミング的思考などを生かし、各教科等と関連させた指導を行う。

読解力の育成	
取組	・前年度の学習力サポートテスト等の結果を踏まえ、読解力の育成のために各教科の授業における文章読解の活動を積極的に取り入れる。 ・週2～3回程度、朝の15分間読書を実施するとともに、週1回のボランティアによる読み聞かせ、公共図書館との連携、年1回のお話会を行い、読書習慣の機会を増やす。



3 取組結果の検証

	令和7年度の取組の成果	令和7年度の取組の課題と解決策
--	-------------	-----------------

国 語	・ 第 4 学年は、 ・ 第 5 学年は、 ・ 第 6 学年は、	・ 第 4 学年は、 ・ 第 5 学年は、 ・ 第 6 学年は、
算数・数学	・ 第 4 学年は、 ・ 第 5 学年は、 ・ 第 6 学年は、	・ 第 4 学年は、 ・ 第 5 学年は、 ・ 第 6 学年は、
社 会	・ 第 4 学年は、 ・ 第 5 学年は、 ・ 第 6 学年は、	・ 第 4 学年は、 ・ 第 5 学年は、 ・ 第 6 学年は、
理 科	・ 第 4 学年は、 ・ 第 5 学年は、 ・ 第 6 学年は、	・ 第 4 学年は、 ・ 第 5 学年は、 ・ 第 6 学年は、
英 語		
体力向上	・ 第 4 学年は、 ・ 第 5 学年は、 ・ 第 6 学年は、	・ 第 4 学年は、 ・ 第 5 学年は、 ・ 第 6 学年は、

個別最適な学びと協働的な学びの充実	
成果と課題	・ 第 4 学年は、 ・ 第 5 学年は、 ・ 第 6 学年は、

探究的な学びの充実	
成果と課題	・ 第 4 学年は、 ・ 第 5 学年は、 ・ 第 6 学年は、

読解力の育成	
成果と課題	・第4学年は、 ・第5学年は、 ・第6学年は、